

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

- (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 2
 - ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析
 - イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析
 - ウ 新設研究科の趣旨目的、教育内容、定員設定等
 - エ 学生確保の見通し
 - A. 学生確保の見通しの調査結果
 - B. 新設研究科等の分野の動向
 - C. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等
 - D. 競合校の状況
 - E. 既設学部等の学生確保の状況
 - F. その他、申請者において検討・分析した事項
 - オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

- (2) 人材需要の動向等社会の要請 18
 - ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）
 - ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

岡山理科大学（以下、「本大学」という。）は、昭和39年(1964年)に創立し、理工系学部を中心に5万人を超える卒業生を輩出してきた。設立母体である学校法人加計学園は、「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し、技術者として社会人として社会に貢献できる人材を養成する」ことを建学の理念に掲げ、教育による実践力の高い調和のとれた人格の涵養を目的としてきた。

本大学では、時代のニーズに合わせ、令和4年(2022年)4月に大幅な学部改組を行った。第1に、総合情報学部情報科学科及び工学部知能機械工学科を改組し、情報技術と機械制御技術を融合する教育研究を行う「情報理工学部情報理工学科」を設置、第2に理学部生物化学科、臨床生命科学科、工学部応用化学科(令和3年(2021年)度までバイオ・応用化学科)、生命医療工学科を改組し、生物科学に関する基礎と応用の教育研究をめざす「生命科学部生物科学科」を設置、第3に岡山キャンパスの学部学科の教育研究分野を横断的に学ぶ「アクティブラーナーズコース」を設置した。これらの改組により、理学部、工学部、情報理工学部、生命科学部、生物地球学部、教育学部、経営学部、獣医学部の8学部体制となった。

続いて令和5年(2023年)度には大学院改組として既設4研究科(理学研究科、工学研究科、総合情報研究科、生物地球科学研究科)を統合した「理工学研究科」を設置する。この研究科では、社会の高度化、複雑化する課題に対して柔軟に対応できる課題解決能力を有する人材を養成するため、専攻を大括り化し、専門分野の深い知識を修得させる一方で、幅広い視野を涵養する教育へと刷新する。教育改革とともに、学納金減額により進学しやすい環境を整え、入学定員減の施策を展開することにより、入学定員充足率の改善も図る。令和5年(2023年)度から理工学研究科とマネジメント研究科の2研究科体制となる。

令和6年(2024年)度の獣医学研究科の設置により、より複雑化・高度化する社会のニーズに総合的に対応できる環境を整備できる。

平成30年(2018年)度に設置した獣医学部は入学定員140名の獣医学科と60名の獣医保健看護学科を有する。このうち獣医保健看護学科では獣医関連専門家の養成を目的とし、令和4年(2022年)度に第1期生29名の卒業生を輩出し、令和5年(2023年)度には第2期生36名の卒業を予定している。第1期生のうち6名は岡山理科大学大学院理学研究科動物学専攻修士課程に進学し、第2期生では5名が大学院進学を希望し、このうち3名が岡山理科大学大学院理工学研究科自然科学専攻修士課程に進学予定である。獣医保健看護学科では3年次よりプレゼミナールとして研究室配属を完了し、卒業研究に取り組む。第3期生以降は60名前後の卒業生輩出が見込まれており、より高度な研究力修得を目指す学生が継続的な研究指導を受けるための進学先として大学院修士課程の設置が必要となっている。

また、獣医学科の第1期生は令和5年(2023年)度3月に卒業を迎える。獣医師国家資格を有する専門家養成を目的とした獣医学科では、ライフサイエンス、公共獣医事、医獣連携獣医分野に分かれて卒業研究を行う。研究力を高めてより効率よく課題解決を目指す学生

や、将来の教育者を目指す学生、及び獣医保健看護学専攻よりさらに進学希望の修士学生の進学先としての博士課程の設置が必要である。岡山理科大学今治キャンパスに獣医学研究科を設置することで、獣医保健看護学科と獣医学科の卒業生に修士課程・博士課程への進学の機会を与えることは本大学の責務と考える。

イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

ウィズコロナ・ポストコロナ時代においてペットブームが訪れ、日本では0～14歳の人口を超える匹数のペットが飼育されるようになった。米国欧州で進むアニマルウェルフェア（動物福祉）重視の流れや鳥インフルエンザ・豚熱などの感染症は日本の畜産農家とそれを支える産業動物獣医師の負担を増大させている。また、人医療を支える実験動物の管理・応用は医療技術の発展に必要であるが、COVID19対応を見ても明らかな通り、現在の日本の獣医療の体制は他の先進国やアジア諸国に後れをとっている。獣医学分野の高度化・高効率化は愛玩動物・産業動物の健康の維持だけではなく、動物と人の豊かな共存を支えるためにも社会的に喫緊の課題である。動物に関わる様々な課題に対応できる人材には、人類と共存する動物を分子・個体、環境及び臨床を含む多角的視点から理解するための基礎・社会・臨床研究から導き出されるエビデンスを解析する研究者としての知識・思考力・意識・技能が必要である。これらの技能を修得し、獣医学関連研究をベースとして新規研究領域や産業を萌芽するための創造力を発揮できる研究者、さらに将来この分野にて指導者となり得る人材を養成する組織が必要である。

上記の社会的ニーズに関する最新かつ客観的な分析をするため、株式会社高等教育総合研究所に依頼し、岡山理科大学獣医学部の実習先・インターンシップ先または卒業予定者の内定先となっている愛媛県・周辺県をはじめ全国の動物病院、動物園・水族館、養牛場・養豚場・養鶏場、企業（製薬・食品・飼料）、行政機関（国家公務・地方公務）など、合計840カ所の人事・採用担当者を対象にアンケート調査を行った【資料1】。200カ所より得られた回答（返送率23.8%）のうち、103カ所は西日本からの回答であり、この地域での注目の高さが示された。全体の76%（152カ所）の回答は獣医学専攻博士課程の社会的ニーズを認め、博士課程が養成する人材に対して採用意向を示したのは95カ所であり、全国の幅広い施設からのニーズを確認できる。獣医保健看護学専攻修士課程の社会的ニーズを認めたのは63%（126カ所）、修士課程が養成する人材に対して採用意向を示したのは71カ所であり、博士課程と同程度のニーズを確認できる。また、修士・博士課程への進学を推奨すると回答した企業、機関はそれぞれ修士課程31カ所、博士課程40カ所となり、両専攻が養成する人材の採用にとどまらず、現在勤務している人材の再教育への意思が確認できる。さらに、本研究科設置に関して期待される点についてもコメントには、本研究科で養成される人材が「願わくは、愛媛県に就職していただけると、なお良いと考えます」「小動物臨床の分野において、東日本の大学が有名だと感じています。西日本で中心となる大学を期待しています。」「四国地域の獣医学発展のためには良いことと考えます」「四国や中国地方の小動

物開業獣医師や勤務獣医師が仕事に支障のない範囲で勉強出来る制度があればいいと思います」という、獣医学教育研究機関の地理的な空白を埋めることに期待する声が見られる。また、産業動物や公共獣医事を含めた研究職の人材育成に期待する声も寄せられ、教育課程の独自性や地域ニーズを織り込んだ本研究科の設置の趣旨に対する期待も確認できる。

獣医学研究科は獣医学部からの内部進学を想定しており、平成30年(2018年)度の獣医学部設置時より(表1)のとおり四国内、愛媛県内から入学者が毎年一定数存在している。したがって、今後も継続的に四国内、愛媛県内からの学部入学者が見込まれるため、地域から入学してくる学部生の内部進学を推進することで進学者の確保に繋げることが期待できる。

獣医学部入学者数(出身地別) (表1)

		うち 今治市内	うち 愛媛県内	うち 四国内	中部以西	関東以北	外国	計
平成30年(2018年)度	獣医学科	(3)	(9)	(14)	106	31	10	147
	獣医保健看護学科	(2)	(8)	(8)	30	9	0	39
令和元年(2019年)度	獣医学科	(3)	(5)	(14)	113	53	6	172
	獣医保健看護学科	(0)	(9)	(11)	38	5	0	43
令和2年(2020年)度	獣医学科	(1)	(4)	(7)	90	57	4	151
	獣医保健看護学科	(2)	(10)	(12)	59	2	10	71
令和3年(2021年)度	獣医学科	(0)	(3)	(8)	91	47	2	140
	獣医保健看護学科	(1)	(9)	(16)	59	0	3	62
令和4年(2022年)度	獣医学科	(0)	(5)	(8)	98	44	1	143
	獣医保健看護学科	(2)	(10)	(16)	65	3	2	70

ウ 新設研究科の趣旨目的、教育内容、定員設定等

1) 新設研究科の趣旨目的

本研究科は、獣医学に関する大学院研究科の空白地帯である四国において地域に生じる課題対応に必要な人材育成の見地から、獣医学部獣医学科・獣医保健看護学科を基礎として、広義の獣医学教育・研究拠点としての機能を有するとともに、その養成が急務とされている動物に関わる様々な課題解決能力の備わった研究者、将来の指導者となり得る人材(獣医師・動物看護師・獣医関連科学研究者)の養成をめざして愛媛県今治市に設置するものである。

本研究科の特色は、獣医保健看護学研究者(高度獣医療看護・獣医関連科学分野)の養成を目的とする獣医保健看護学専攻修士課程と俯瞰的な視野を持つ指導者及び次世代研究者の養成を目的とする獣医学専攻博士課程を有することである。各課程に設置するカリキュラムにおいて幅広く深い学識の涵養と専門知識の修得、さらには研究者として自立し研究活動を行う能力を養う。本研究科を構成する教員は獣医学部にて学生の卒業研究を指導しており、修士・博士課程において継続的な研究指導を可能とする。教員の研究背景は、獣医

保健看護学・獣医学のみならず、医学・薬学・理学・水産学と幅広く、これが本研究科の教育・研究の礎となる。さらに、学生に対する教育が研究室にて完結することのないように、研究指導において両専攻ともに複数研究指導教員制度による指導体制を用意することで、専攻内でオープンな学びを可能にする。本学部の特色であるオープンラボ形式は協調的な大学院教育研究の指導を可能とする。研究に必要な研究機器・設備は全て共同利用でき、効率的な研究推進の要となる。獣医学教育病院は、高度獣医療機器が充実しており、特出すべきは四国唯一であるリニアック（放射線治療装置）を有し、これらを応用した次世代を見通した最新の獣医療研究の推進が可能になる。加えて、本研究科教員と岡山キャンパス理工学研究科との連携によってより複雑な課題に対して効率的に対応できるようになる。また、現在進行している本学理工学研究科、愛媛県内研究機関や愛媛大学、松山大学との連携により、愛媛県・環瀬戸内地域に生まれた獣医療工学デバイス、人獣共通感染症、加齢性疾患などの共同研究や産学官連携事業への学生の参加が可能となる。

本研究科と同じ規模で研究者の養成を主な目的とした獣医保健看護学専攻と獣医学専攻を有する獣医学研究科は西日本地区には存在せず、地理的な空白を埋めることも期待される。

2) 教育内容

本研究科の教育研究上の目的は、「人間社会に密接に関係し、かつ人類と共存する動物群を分子・個体、環境、及び臨床を含む多角的視点から理解するための基礎・社会・臨床研究を進めること、また、これらの研究をベースとして持続可能な未来における新規研究領域を萌芽するための創造力を発揮できるライフサイエンス、パブリックヘルスサイエンス（公共獣医事）、クリニカルサイエンス（高度獣医療看護・臨床獣医）の視点を有する研究者や指導者を養成する」ことにある。そのため、本研究科には、基軸となる3つの研究分野「ライフサイエンス、パブリックヘルスサイエンス（感染症・公共獣医事）、クリニカルサイエンス（高度獣医療看護・高度獣医臨床分野）」を設定し、多様な研究に携わる教員が分野横断的に教育することで、学生に獣医学分野を俯瞰的・体系的な視野を涵養する。

研究対象とする中心的な学問分野は、獣医保健看護学専攻ではライフサイエンスとパブリックヘルスサイエンスを含む獣医関連科学分野及び獣医療看護分野である。獣医学専攻はライフサイエンス、パブリックヘルスサイエンス、クリニカルサイエンス分野である。

それぞれの専攻において研究対象となる学問分野の具体例は以下のとおりである。

< 獣医保健看護学専攻 >

高度獣医療看護分野：動物看護学、動物福祉学

獣医関連科学分野：基礎獣医学、病態獣医学、実験動物学、動物生命科学、
応用獣医学、感染症学、動物生産科学、疫学

< 獣医学専攻 >

ライフサイエンス分野：基礎獣医学、病態獣医学、実験動物学、動物生命科学

パブリックヘルスサイエンス分野：応用獣医学、感染症学、疫学、動物生産科学

クリニカルサイエンス分野：病態獣医学、臨床獣医学、動物看護学、動物福祉学

研究活動においても、基礎となる学問領域や研究手法が分野間で相互に重なり合う部分も多くあり、複数研究指導教員制度や大型装置を含めた機器や研究施設の共同利用、セミナーの共同開催を通じて、共同研究を推進する。さらに異分野融合プロジェクトの形成を促すことで、研究科全体の研究レベルの向上をめざす。

3) 入学定員設定の考え方

本研究科の入学者の多くは、獣医保健看護学専攻修士課程では本学獣医学部獣医保健看護学科からの進学者、獣医学専攻博士課程では獣医学科からの進学者、獣医保健看護学専攻修士課程からの進学者を想定している。

新設する研究科・専攻（表2）

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	学位
獣医学研究科	獣医保健看護学専攻修士課程	5	10	修士（獣医保健看護学）
	獣医学専攻博士課程	3	12	博士（獣医学）

学校基本調査過去5年間（平成29年(2018年)度から令和3年(2022年)度）の大学卒業者のうち、大学院へ進学した者の進学率をまとめると（表3）、全国的には10.5%~11.3%の間で推移している。このうち、本大学の大学院へ進学する可能性が高いと思われる中国四国地区の状況については、12.2%~13.1%で推移しており、ほぼ全国平均並みの値で推移していることがわかる。

大学卒業者のうち大学院進学者の割合（学校基本調査より抜粋）（表3）

	2018年 (平成29年度)	2019年 (平成30年度)	2020年 (令和元年度)	2021年 (令和2年度)	2022年 (令和3年度)
鳥取県	24.0%	22.6%	21.0%	23.0%	22.6%
島根県	16.6%	16.9%	14.0%	18.5%	15.5%
岡山県	12.0%	11.3%	11.7%	12.7%	11.4%
広島県	10.5%	9.4%	9.5%	10.0%	10.3%
山口県	14.5%	13.3%	13.2%	13.6%	16.2%
徳島県	20.2%	18.8%	20.9%	20.5%	21.9%
香川県	11.8%	10.3%	9.3%	11.3%	13.1%
愛媛県	11.3%	12.1%	12.4%	10.9%	11.5%
高知県	16.1%	14.4%	16.1%	15.5%	15.0%
中四国平均	13.1%	12.2%	12.4%	13.0%	13.1%
全国	10.9%	10.5%	10.4%	10.9%	11.3%

次に、本大学の学部卒業者のうち、大学院修士課程へ進学した者の過去5年間の推移は（表4）のとおりであり、進学率は8.8%から9.8%で推移している。また、本大学の修士課程修了者のうち博士課程（後期）へ進学した者の過去5年間の推移は（表4）のとおりであり、進学率は令和元年（2020年）度を除き、8.8%から12.1%で推移している。

本大学卒業生・修了者のうち大学院進学者の割合（表4）

	2018年 (平成29年度)	2019年 (平成30年度)	2020年 (令和元年度)	2021年 (令和2年度)	2022年 (令和3年度)
本学卒業生の修士課程への進学率	9.6%	9.6%	8.8%	9.8%	9.5%
本学卒業生人数	1,327	1,272	1,347	1,382	1,275
本学卒業生進学人数	127	122	119	135	121
本学修士課程修了者の博士課程（後期）への進学率	9.9%	12.1%	4.7%	8.8%	9.6%
本学修了者人数	81	99	86	80	73
本学修了者進学人数	8	12	4	7	7

令和6年（2024年）度に設置する獣医学研究科のうち、獣医保健看護学専攻修士課程が基礎とする学科（獣医保健看護学科）の入学定員は60名であり、このうち9.0%が進学すると想定すると5名となることから、獣医保健看護学専攻修士課程の入学定員は5名と設定する。次に獣医学専攻博士課程については、基礎とする学科（獣医学科）の入学定員は140名であり、このうち9.0%が進学すると想定すると12名となる。自立した研究者育成に必要な教育研究環境を維持するため、他大学院の定員を参考（D. 競合校の状況 表12）に入学定員は3名と設定する。

4) 学生納付金の設定の考え方

本研究科の学生納付金は、競合する他大学大学院の学生納付金（表5～6）を参考に、既存の理工学研究科と同額とし、入学金100千円、授業料等を620千円（授業料420千円、実験実習費100千円、施設設備費100千円）とする。

獣医保健看護学専攻の学納金と他大学大学院同系研究科の学納金比較（表5）（単位：円）

大学院名 (所在地)	研究科名	課程	入学金	授業料他	初年度 納付金合計
岡山理科大学大学院 (愛媛県今治市)	獣医学研究科	獣医保健看護学専攻 修士課程	100,000	620,000	720,000
酪農学園大学大学院 (北海道江別市)	獣医学研究科	獣医保健看護学専攻 修士課程	140,000	705,000	845,000
麻布大学大学院 (神奈川県相模原市)	獣医学研究科	動物応用科学専攻 博士前期課程	250,000	980,000	1,230,000
北里大学大学院 (青森県十和田市)	獣医学系研究科	動物資源科学専攻 修士課程	200,000	450,000	650,000
日本獣医生命科学大学大学院 (東京都武蔵野市)	獣医生命科学系研究科	獣医保健看護学専攻 博士前期課程	200,000	840,000	1,040,000
ヤマザキ動物看護大学大学院 (東京都八王子市)	動物看護学研究科	動物看護学専攻 修士課程	150,000	950,000	1,100,000

獣医学専攻の学納金と他大学大学院同系研究科の学納金比較（表6）

（単位：円）

大学院名 (所在地)	研究科名	課程	入学金	授業料他	初年度 納付金合計
岡山理科大学大学院 (愛媛県今治市)	獣医学研究科	獣医学専攻 博士課程	100,000	620,000	720,000
酪農学園大学大学院 (北海道江別市)	獣医学研究科	獣医学専攻 博士課程	140,000	715,000	855,000
麻布大学大学院 (神奈川県相模原市)	獣医学研究科	獣医学専攻 博士課程	250,000	980,000	1,230,000
日本大学大学院 (神奈川県藤沢市)	獣医学研究科	獣医学専攻 博士課程	200,000	1,050,000	1,250,000
北里大学大学院 (青森県十和田市)	獣医学系研究科	獣医学専攻 博士課程	200,000	450,000	650,000
日本獣医生命科学大学大学院 (東京都武蔵野市)	獣医生命科学研究科	獣医学専攻 博士課程	200,000	830,000	1,130,000

エ 学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

本研究科に対する受験対象者等からのニーズ調査を行った。調査対象には、アドミッションポリシーに基づき獣医保健看護学・獣医学、動物科学、生命科学の基礎的な知識・能力をもつグループとして、1) 岡山理科大学獣医学部獣医保健看護学科3年次生（開設予定の令和6年(2024年)度に獣医保健看護学専攻修士課程の進学時期を迎える者）、2) 岡山理科大学獣医学部獣医学科5年次生および理学研究科動物学専攻修士課程1年次生（開設予定の令和6年(2024年)度に獣医学専攻博士課程の進学時期を迎える者）、3) 獣医学部の実習先・インターンシップ先等の企業に勤務している社会人を選んだ【資料2】。

A-1 岡山理科大学獣医学部獣医保健看護学科3年次生を対象としたアンケート調査

本大学の獣医学部獣医保健看護学科の3年次生に設置を予定している本研究科獣医保健看護学専攻修士課程の設置構想に関する概要を示した上で回答を求めたところ、回答数55件の内、9.0%にあたる5名が進学の意向を示し、キャリア形成の取り組みとして獣医保健看護学専攻修士課程進学を考えている学生は全国平均程度認められた。この内、1名が「進学したい」と回答している。

A-2 岡山理科大学獣医学部獣医学科5年次生および理学研究科動物学専攻修士課程1年生を対象としたアンケート調査

本大学の獣医学部獣医学科5年次生および大学院理学研究科動物学専攻修士課程1年次生に設置を予定している本研究科獣医学専攻博士課程の設置構想に関する概要を示した上で回答を求めたところ、獣医学科5年次生では回答数94件の内、8.5%にあたる8名が進学の意向を示し、全国平均程度の進学への希望を確認した。この内、3名が「進学したい」

と回答し、強い進学的意思を示している。また、大学院理学研究科動物学専攻修士課程の1年次生では回答数5件の内、40.0%にあたる2名が進学の意向を示し、「進学したい」と回答している。

A-3 獣医学部の実習先・インターンシップ先等の企業に勤務している社会人を対象としたアンケート調査

獣医学部の実習先・インターンシップ先等の企業に勤務している社会人に設置を予定している本研究科獣医保健看護学専攻修士課程および獣医学専攻博士課程の設置構想に関する概要を示した上で回答を求めたところ、獣医保健看護学専攻修士課程では回答数38件の内、23.7%にあたる9名が進学の意向を示した。この内、5名が「進学したい」と回答し、強い進学的意思を示している。また、獣医学専攻博士課程では回答数150件の内、14.0%にあたる21名が進学の意向を示した。この内、6名が「進学したい」と回答している。

以上のアンケート結果から、本研究科獣医保健看護学専攻修士課程に入学定員5名を上回る6名が進学の意向を示している。次に獣医学専攻博士課程に入学定員3名を上回る11名が進学の意向を示している。

以上のことから、本研究科の獣医保健看護学専攻修士課程、獣医学専攻博士課程に関して学生確保の見通しがあるといえる。

B. 新設研究科等の分野の動向

本大学大学院が設置する農学分野（ライフサイエンスとパブリックヘルスサイエンスを含む獣医関連科学分野及び獣医療看護分野）及び獣医学分野についての状況を概観する。私立大学大学院の入学者動向に関して、日本私立学校振興・共済事業団による「私立大学・短期大学等入学志願動向」について、農学系（その他研究科）修士課程及び農学系（獣医研究科）博士課程の直近5年間（平成30年(2018年)度から令和4年(2022年)度）における志願動向の推移を確認した（表7～表10）。過去5年間において農学系（その他研究科）修士課程の入学者は修士課程全体の0.7%～1.4%の割合で、農学系（獣医研究科）博士課程の入学者は博士課程全体の0.4%～0.6%の割合で推移している。

また、農学系（その他研究科）修士課程の入学定員充足率は76.7%～108.6%、農学系（獣医学研究科）博士課程の入学定員充足率は69.6%～113.0%である。直近の2022年度においてはともに100%を超える入学定員充足率であった。

さらに、大学院修士課程全体、及び農学系全体の入学定員は過去5年間で増加したが入学者の増加はこれを上回っており入学定員充足率は増加していることから、修士課程においては、安定的な入学層が見込まれるといえる。一方、博士課程についても獣医学研究科において5年間の平均定員充足率は95%であり、獣医学専攻の定員充足が見込まれる。

大学院修士課程全体の動向（表 7）

	平成 30 年 (2018 年) 度	令和元年 (2019 年) 度	令和 2 年 (2020 年) 度	令和 3 年 (2021 年) 度	令和 4 年 (2022 年) 度
入学定員	41,370	41,824	42,291	42,577	42,936
入学者 (a)	31,353	31,488	31,365	32,405	33,862
入学定員充足率	75.79%	75.29%	74.16%	76.11%	78.87%
研究科数	1,194	1,203	1,216	1,226	1,240

農学系（その他研究科）修士課程の動向（表 8）

	平成 30 年 (2018 年) 度	令和元年 (2019 年) 度	令和 2 年 (2020 年) 度	令和 3 年 (2021 年) 度	令和 4 年 (2022 年) 度
入学定員	279	279	355	435	441
入学者 (b)	241	214	287	392	479
入学定員充足率	86.38%	76.70%	80.85%	90.11%	108.62%
研究科数	13	13	14	17	18
修士課程全体の内 農学系の割合 (b/a)	0.8%	0.7%	0.9%	1.2%	1.4%

大学院博士課程全体の動向（表 9）

	平成 30 年 (2018 年) 度	令和元年 (2019 年) 度	令和 2 年 (2020 年) 度	令和 3 年 (2021 年) 度	令和 4 年 (2022 年) 度
入学定員	8,459	8,513	8,525	8,527	8,549
入学者 (a)	4,496	4,422	4,288	4,016	4,078
入学定員充足率	53.15%	51.94%	50.26%	47.10%	47.70%
研究科数	841	849	860	869	876

農学系（獣医学研究科）博士課程の動向（表 10）

	平成 30 年 (2018 年) 度	令和元年 (2019 年) 度	令和 2 年 (2020 年) 度	令和 3 年 (2021 年) 度	令和 4 年 (2022 年) 度
入学定員	23	23	23	23	23
入学者 (b)	25	26	16	18	24
入学定員充足率	108.70%	113.04%	69.57%	78.26%	104.35%
研究科数	3	3	3	3	3
博士課程全体の内 農学系の割合 (b/a)	0.6%	0.6%	0.4%	0.4%	0.6%

C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等

本研究科においては、学部からの内部進学者を主な入学者として想定している。加えて社会人入学者に関しては、アドミッションポリシーに基づき、社会人のうち4年制または6年制大学を卒業した人を対象とし、対象となる企業・機関は獣医学部学生の学外実習先やインターンシップ先としている。本研究科にアクセスできる中四国地域には、他の地域と同様に動物病院や診療機関、公共獣医事を担う国や県の研究機関、動物関連企業が存在しており、地理的な競合校を有さない本研究科への一定数の進学希望者が見込まれる。

D. 競合校の状況

獣医保健看護学専攻修士課程と競合する大学院における入学志願状況は（表11）のとおりであり、これらの研究科とは地理的に離れていることから、本専攻の志願動向に影響は少ないと考えられる。

令和4年(2022年)度の競合する大学における入学志願状況等（表11）

大学院・研究科・専攻名	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
酪農学園大学大学院獣医学研究科 獣医保健看護学専攻修士課程	3	公表なし	公表なし	公表なし	2	66.7%
麻布大学大学院獣医学研究科 動物応用科学専攻博士前期課程	20	26	26	25	23	115.0%
北里大学大学院獣医学系研究科 動物資源科学専攻修士課程	5	14	13	8	8	160.0%
日本獣医生命科学大学大学院 獣医生命科学研究科 獣医保健看護学専攻博士前期課程	5	公表なし	公表なし	公表なし	9	180.0%
ヤマザキ動物看護大学大学院 動物看護学研究科 動物看護学専攻修士課程	5	公表なし	公表なし	公表なし	5	100.0%

また、獣医学専攻博士課程と競合する大学院における入学志願状況は（表12）のとおりであり、これらの研究科とは地理的に離れていることから、本専攻の志願動向に影響は少ないと考えられる。

令和4年(2022年)度の競合する大学における入学志願状況等（表12）

大学院・研究科・専攻名	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
酪農学園大学大学院獣医学研究科 獣医学専攻博士課程	3	公表なし	公表なし	公表なし	8	266.7%
麻布大学大学院獣医学研究科 獣医学専攻博士課程	10	12	12	12	12	120.0%
日本大学大学院獣医学研究科 獣医学専攻博士課程	6	公表なし	公表なし	公表なし	公表なし	公表なし
北里大学大学院獣医学系研究科 獣医学専攻博士課程	3	6	6	6	6	200.0%
日本獣医生命科学大学大学院 獣医生命科学研究科 獣医学専攻博士課程	5	公表なし	公表なし	公表なし	5	100.0%

E. 既設学部等の学生確保の状況

岡山理科大学理学部化学科及び臨床生命科学科、千葉科学大学危機管理学部航空技術危機管理学科及び動物危機管理学科において、定員充足率が0.7未満である。また、6年制である千葉科学大学薬学部薬学科においても、定員充足率が0.7未満である。これらの学科について定員未充足の原因分析及び定員設定の合理性について示す。

岡山理科大学 理学部 化学科

過去5年間の入学志願状況は以下のとおりである。

理学部化学科の過去5年間の入学志願状況（表13）

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	定員超過率
平成30年(2018年)度	75	195	171	48	0.64
令和元年(2019年)度	75	237	208	58	0.77
令和2年(2020年)度	75	341	299	75	1.00
令和3年(2021年)度	75	254	220	42	0.56
令和4年(2022年)度	75	275	244	48	0.64

平成30年(2018年)度以降、入学者数が減少傾向にある。その要因について高校への聞き取りでは「化学」選択者の減少と、進学先が化学・応用化学・薬学・農芸化学と多岐にわたることを挙げる高校が多かった。

今後、高校低年次より、化学への興味関心を引き出すために、「高校生のための化学実験教室」を本学で開催する。また、企業・公的機関での研究職を目指し、大学院へ早期進学を目指す「大学院早期進学コース」も高校生へ訴求力があるため、フライヤーを作成し周知を図っている。こうした地道な活動を通し、今後も引き続き学生確保に努めていく。

岡山理科大学 理学部 臨床生命科学科

過去5年間の入学志願状況は以下のとおりである。

理学部臨床生命科学科の過去5年間の入学志願状況（表14）

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	定員超過率
平成30年(2018年)度	95	253	216	57	0.60
令和元年(2019年)度	95	259	229	67	0.70
令和2年(2020年)度	95	299	263	61	0.64
令和3年(2021年)度	95	300	264	45	0.47
令和4年(2022年)度	50	221	196	45	0.90

臨床生命科学科は「臨床科学コース」「基礎医科学コース」の2コースを設けていたが、「基礎医科学コース」は臨床検査技師の国家資格を取得できなく、そのことが定員未充足に

つながった。令和4年(2022年)度に向けた学部・学科の改組を令和元年(2019年)度から令和2年(2020年)度にかけて全学的に検討した結果、学科の内容を臨床検査技師の国家資格取得に特化した内容に変更し、入学定員を95名から50名に減ずることとした。

今後、学科単独の高校訪問だけではなく、生命系の他学科教員と高校訪問を実施することで、高校教員を通じて受験生に学科内容を周知し、定員充足を図る。また、令和5年(2023年)度に向けて、上記の他WEB広告等学科のアピールを行い、引き続き定員充足を図っていく。

千葉科学大学 薬学部 薬学科

過去5年間の入学志願状況は以下のとおりである。

千葉科学大学薬学部薬学科の過去5年間の入学志願状況(表15)

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	定員超過率
平成30年(2018年)度	120	287	235	76	0.63
令和元年(2019年)度	120	290	263	61	0.50
令和2年(2020年)度	120	264	231	59	0.49
令和3年(2021年)度	120	224	200	76	0.63
令和4年(2022年)度	100	214	204	50	0.50

令和元年(2019年)度以降、志願者数、入学者数共に減少傾向にある。その要因は、全国的な薬学志願者の減少や本学科の国家資格の合格率が伸びていないことであり、より合格率の高い競合他大学へ受験生が移ったものと考えられる。志願者数、入学者数の実績を考慮して、令和4年(2022年)度より入学定員を20名減じた。

千葉科学大学 危機管理学部 航空技術危機管理学科

過去5年間の入学志願状況は以下のとおりである。

千葉科学大学危機管理学部航空技術危機管理学科の過去5年間の入学志願状況(表16)

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	定員超過率
平成30年(2018年)度	40	34	28	13	0.32
令和元年(2019年)度	40	60	34	15	0.37
令和2年(2020年)度	40	178	76	31	0.77
令和3年(2021年)度	40	121	64	31	0.77
令和4年(2022年)度	40	133	83	33	0.82

パイロットや航空整備関係など、卒業生の就職実績が上がっていることに伴い、志願者数、入学者数も回復傾向にある。一方で、コロナ禍における航空産業の業績低下が、本学科を希望する受験生の伸び悩みに繋がったと考えられる。

千葉科学大学 危機管理学部 動物危機管理学科

過去5年間の入学志願状況は以下のとおりである。

千葉科学大学危機管理学部動物危機管理学科の過去5年間の入学志願状況（表17）

年度	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	定員超過率
平成30年(2018年)度	40	70	66	17	0.42
令和元年(2019年)度	60	122	115	29	0.48
令和2年(2020年)度	60	207	193	50	0.83
令和3年(2021年)度	60	189	177	48	0.80
令和4年(2022年)度	60	133	128	29	0.48

危機管理学部では理学系、特に自然科学系に興味がある学生に対し、環境危機管理学科、動物危機管理学科の2学科を併設していたことで志願者が分散してしまった。令和元年(2019年)度に学科構成を見直したことで志願者数、入学者数共に増加傾向となったが、近隣の他大学と競合していること、また、教育内容の特色が受験生に浸透していなかったことが、志願者、入学者の減少に繋がったと考える。

F. その他、申請者において検討・分析した事項

1) 基礎となる獣医学部における過去5年間の入学志願者状況（表18、19）

岡山理科大学 獣医学部 獣医保健看護学科（表18）

年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員超過率	卒業者数
平成30年(2018年)度	60	70	267	230	39	0.65	29
令和元年(2019年)度	60	122	311	282	43	0.71	36(予定)
令和2年(2020年)度	60	207	445	265	71	1.18	—
令和3年(2021年)度	60	189	277	205	62	1.03	—
令和4年(2022年)度	60	133	208	156	70	1.16	—

岡山理科大学 獣医学部 獣医学科（表19）

年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員超過率
平成30年(2018年)度	140	2,080	1,962	334	147	1.05
令和元年(2019年)度	140	1,791	1,669	301	172	1.22
令和2年(2020年)度	140	1,638	1,488	279	151	1.07
令和3年(2021年)度	140	2,027	1,896	301	140	1.00
令和4年(2022年)度	140	2,137	2,041	478	143	1.02

獣医保健看護学科は、開学後2年間は定員充足しなかったが、積極的な学生確保の取り組みの結果、その後直近3年間は入学志願者の増加が見られ、入学定員を充足している。2023年に始まった動物看護師の国家資格制度の導入により獣医保健看護学科入学志願者の増加が見込まれる。

獣医学科においては、開学以来入学志願者数は定員の12～15倍であり、直近3年では安定した数の入学者を受け入れている。前述の通り、獣医学科卒業生数に対して9%前後の研究科志願者、また、獣医保健看護学専攻からの志願者が見込まれる。

2) 専任教員の研究活動

研究科における学生の確保には教員の研究活動状況が一つの要因になると考え、その客観的な根拠として文部科学省科学研究費補助金獲得状況を検討する。直近5年の内で、本研究科の予定専任教員26名のうち16名が研究代表者として文部科学省科学研究費補助金に採択された研究課題を少なくとも1つ有する。基礎となる獣医学部全体では、(表20)の通り科研費獲得総額(直接+間接経費)は年々増加し、令和4年(2022年)度には41件の研究課題が採択されている。加えて、民間助成金や産学官事業への参加など本研究科専任教員のみならず、基礎となる獣医学部全体の研究活動ポートフォリオが獣医学に関する教育研究機関の空白地域での継続的な学生確保を支えると考えられる。

獣医学部専任教員による文部科学省科学研究費補助金採択状況(研究代表のみ) (表20)

	研究費総額(単位:千円)	採択件数
平成30年(2018年)度	17,624	13
令和元年(2019年)度	48,802	31
令和2年(2020年)度	83,499	38
令和3年(2021年)度	85,340	40
令和4年(2022年)度	89,728	41

オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

学生確保に向けた具体的な取り組みとして、①特色ある教育課程の計画、②在学生に向けた進学への動機づけ、③学部入学希望者への広報活動、④社会人へのアプローチ、⑤経済的な支援、配慮を行う。

- ① 特色ある教育課程の実施: 獣医保健看護学専攻修士課程は、高度獣医療看護分野と獣医関連科学分野を含み、動物看護師専門家養成を主目的とした競合大学院と一線を画する。さらに、俯瞰的かつ専門性の高い知識、技能を教育するために複数研究指導教員制度を計画しており、これらの独自性のある教育研究活動を実施することで、新しい進路を開拓し、学生及び社会のニーズを作る。

- ② 学部在学生及び修士学生には、入学時から年1回程度オリエンテーション、キャリア研修等の機会、および基礎となる学部・学科で行われる講義を通して大学院進学に関する進学の動機づけを行う。就職活動が始まる獣医保健看護学科3年次、獣医学科5年次の春には大学院進学セミナー（仮題）をもうけて、本大学院における教育課程の特色や研究指導方針など進学に関するより具体的な解説を行う。同時に希望調査を行い、卒業研究指導教員と情報共有し、学部での卒業研究との継続を図ると共に、指導教員により詳細な研究指導計画の説明を行うことで進学を勧める。獣医保健看護学科4年次生および獣医学科6年次生を対象に、入学試験等の具体的な内容を伝える進学説明会を年2回開催する。また、大学院生にTAとして学部の実習を経験させることで、大学院生と学部学生が直接交流を設ける。本研究科の内容の周知を図るために大学院案内（パンフレット）を作成する予定である。そこには設置趣旨と教育目標、カリキュラムの特徴等をわかりやすく示すとともに、大学院での研究活動が明確に理解できるように、担当教員の研究内容を紹介する。これらの内容を含むホームページも作成し、広報を行っていく。
- ③ オープンキャンパスなどの機会において学部入学対象者に対して獣医学部の教育を紹介する際に、本研究科における大学院教育の特色も解説することで、学部教育と研究科教育の連携について周知し、大学院進学を希望する学部受験生の層を開拓する。
- ④ 社会人には、学外実習先やインターンシップ先、キャリア指導の一環として実施している合同業界研究会等に参加している企業・団体および予定専任教員と関係のある企業・団体に対して、大学院案内パンフレットを配布する。また、長期履修制度により標準修業年限を超えて一定の期間にわたり修学（本研究科の修士課程は4年、博士課程は8年を限度）することを可能にしており、職業を有している等の事情をもつ学生の進学を促すことで、中長期的に社会人の入学を確保することが可能となる。
- ⑤ 経済的な支援、配慮として、授業料等の納付金を国公立大学レベルの額（表20～21）に設定していることが挙げられる。さらに、大学院生の学会活動や学外調査に係る旅費の支給や、TA及びRA（リサーチアシスタント）としての給与を支給することができる制度を設定している。これらの経済的支援は研究教育の一環として捉えており、積極的に参加を促す。

獣医保健看護学専攻の学納金と国公立大学大学院同系研究科の学納金比較（表20）（単位：円）

大学院名 (所在地)	研究科名	課程	入学金	授業料他	初年度 納付金合計
岡山理科大学大学院 (愛媛県今治市)	獣医学研究科	獣医保健看護学専攻 修士課程	100,000	620,000	720,000
広島大学大学院 (広島県東広島市)	統合生命科学研究科	—	282,000	535,800	817,800
岡山大学大学院 (岡山県岡山市)	環境生命科学研究科	—	282,000	535,800	817,800
愛媛大学大学院 (愛媛県松山市)	農学研究科	—	282,000	535,800	817,800

獣医学専攻の学納金と国公立大学大学院同系研究科の学納金比較（表 21）（単位：円）

大学院名 (所在地)	研究科名	課程	入学金	授業料他	初年度 納付金合計
岡山理科大学大学院 (愛媛県今治市)	獣医学研究科	獣医学専攻 博士課程	100,000	620,000	720,000
北海道大学大学院 (北海道札幌市)	獣医学院	獣医学専攻 博士課程	282,000	535,800	817,800
岩手大学大学院 (岩手県盛岡市)	獣医学研究科	共同獣医学専攻 博士課程	282,000	535,800	817,800
宮崎大学大学院 (宮崎県宮崎市)	医学獣医学総合研究科	医学獣医学専攻 博士課程	282,000	535,800	817,800
岐阜大学・鳥取大学大学院 (岐阜県岐阜市・鳥取県鳥取市)	共同獣医学研究科	共同獣医学専攻 博士課程	282,000	535,800	817,800

次に、「入学者の入学定員に対する割合」が 0.7 倍未満の学科の学生確保に向けた具体的な取り組みについて述べる。

・岡山理科大学 理学部 化学科

化学分野への進路選択者を増やすために、「高校生のための化学実験教室」などのイベントを展開する。また、国公立大学志望者に対して本学との併願を促すために、「大学院早期進学コース」「入試特待生制度」を広報する。

これらを通し、志願者および入学者の確保につなげていく。

・岡山理科大学 理学部 臨床生命科学科

令和 4 年(2022 年)度の改組に伴い、入学定員は 50 名(45 名減)となった。引き続き、年内の入学者選抜から受験生の確保を図る。そのためには、受験生との接触機会を増やすべく高校内での系統・分野別のガイダンスに積極的参加することや、オープンキャンパスへの引き込みに焦点をあてて募集活動を行っていく。さらには、医療系資格取得を目指す受験者層に効果的にアプローチするため、WEB プロモーションや HP、SNS などのオウンドメディアの充実を図り広く訴求していく。

・千葉科学大学 薬学部 薬学科

薬学部薬学科では、近年の薬学志願者の減少を受け、令和 4 年(2022 年)度より入学定員を減じたとともに、令和 3 年(2021 年)度より研究室講座制から学習領域別のユニット制に学科内の教育体制を見直し、学生個々に応じた学習指導体制を強化するなど、学生の教育支援体制を拡充する。これらの取り組みを中心に競合校との差別化を図り、歩留まり率の向上を目指す。

志願者確保の方策としては、ZOOM等のインターネット技術を利用したWEBオープンキャンパス、個別学科相談を開催する等、コロナ禍における広報活動を充実させ、志願者確保を目指す。

・千葉科学大学 危機管理学部 航空技術危機管理学科

航空技術危機管理学科では、令和4年(2022年)度より航空機の構造、機能、整備、プログラミング等の航空工学教育にドローン(無人航空機)教育を新たに導入した「航空工学・ドローンコース」を設置し、競合校との差別化を図り、歩留まり率の向上を目指す。

志願者確保の方策として、卒業生の就職実績を元に、積極的に航空機等に興味を持つ受験生に働きかけるとともに、アフターコロナを見据えてZOOM等のインターネット技術を利用したWEBオープンキャンパス、個別学科相談を開催する等、コロナ禍における広報活動を充実させ、志願者確保を目指す。

・千葉科学大学 危機管理学部 動物危機管理学科

動物危機管理学科では、令和4年(2022年)度より開講する科目が愛玩動物看護師国家試験の主務大臣が指定する科目に認められたこと、また、動物関連資格の高い合格率や新たにコースの再編を図り、歩留まり率の向上を目指す。

志願者確保の方策として、引き続き理学系特に自然科学系に興味を持つ受験生を中心にZOOM等のインターネット技術を利用したWEBオープンキャンパス、個別学科相談を開催する等、コロナ禍における広報活動を充実させ、志願者確保を目指す。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

獣医学研究科は、人間社会に密接に関係し、かつ人類と共存する動物群を分子・個体、環境、及び臨床を含む多角的視点から理解するための基礎・社会・臨床研究を進めること、また、これらの研究をベースとして持続可能な未来における新規研究領域を萌芽するための創造力を発揮できるライフサイエンス・パブリックヘルスサイエンス(公共獣医事)・クリニカルサイエンス(高度獣医療看護・臨床獣医)の視点を有する研究者や指導者の養成を目的として設置する。研究科には、獣医保健看護学専攻修士課程と獣医学専攻博士課程を置く。

獣医保健看護学専攻修士課程は、人間社会と密接な関係を持ち個人や社会を支える動物を管理するために必要な高度動物看護学または獣医関連科学の知識を有し、多角的な視点と最先端の研究戦略を用いて問題・課題を解決できる協調性・創造性豊かな獣医保健看護学研究者(高度獣医療看護・獣医関連科学分野研究者)の養成を目的とする。

獣医学専攻博士課程は、「One world, One health, One medicine」の精神に基づき、ライフサイエンス、パブリックヘルスサイエンス、クリニカルサイエンスを含む獣医学に基づく多角的な視点・手法を用いて諸問題を解決できる協調性・創造性豊かな指導者と将来なり得る次世代研究者の養成を目的とする。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

上述【(1)アと(1)エA】において述べたとおり、令和5年(2023年)2月に実施した①本研究科の修了者に対する社会的な需要の動向と②入学意向についてのアンケート調査結果から、愛媛県今治市に設置する本獣医学研究科の養成する人材像に対し、その受け皿となる企業、公共機関の人事担当者からの社会的ニーズは高い、採用したいと回答している【資料1】。

また、上述【(1)エD】の通り、獣医保健看護学専攻修士課程と獣医学専攻博士課程を有する獣医学研究科は西日本地域には存在しない。この地理的空白を埋めることに対する期待があることは、社会的需要調査における人事担当者のコメントに見られる西日本地域、中四国地域における獣医学研究科設置に期待する声、および修士課程または博士課程の入学試験受験の意思を示した45名のうち、30名が愛媛県か近隣県に居住していることから明らかである。

獣医保健看護学専攻修士課程の養成する人材像を示し、本専攻の社会的ニーズを調査したところ、全体の15.5%である31件が「社会的ニーズは高い」、47.5%である95件が「社会的ニーズはある程度高い」との結果を示した。回答企業の63.0%である126件が社会的ニーズの高さを認めている。また、採用意向については、回答数の35.5%である71件が「採用したい」と回答した。

獣医学専攻博士課程の養成する人材像を示し、本専攻の社会的ニーズを調査したところ、全体の19.5%である39件が「社会的ニーズは高い」、56.5%である113件が「社会的ニーズはある程度高い」との結果を示した。回答企業の76.0%である152件が社会的ニーズの高さを認めている。また、採用意向については、回答数の47.5%である95件が「採用したい」と回答した。

以上のアンケート結果から、本研究科の獣医保健看護学専攻修士課程、獣医学専攻博士課程に関して修了者の人材需要が十分に存在していることを示している。